

# 第10回 鳥海ダム環境影響評価技術検討委員会 技術的助言

日時：平成30年10月22日（月）14：00～16：00

場所：鳥海ダム工事事務所 会議室

## 1. 環境モニタリング調査計画(案)に係る技術的助言

### ①水質

No.	技術的助言	回答及び対応方針
1	水質の調査計画には、項目毎の分析方法も記載した方がよい。	分析方法についても記載する。
2	鳥海ダムは水道用水の他、農業用水としても利用される。農業用水基準の適合を確認するために、水質の調査項目には電気伝導率も加えた方がよい。	電気伝導率を調査項目に追加する。時期や頻度については、個別に相談させていただく。
3	底質調査は、初期段階の性状を把握するために試験湛水時にも実施した方がよい。	湛水初期は堆積物が少なく採泥が困難であるが、可能な範囲で試験湛水時にも底質調査を実施する。
4	貯水池内の立木や農耕地の表土等、植物由来のバイオマスを貯水池内に残存したまま湛水すると、貯水池においてDOの低下やCODの上昇が懸念される他、難分解性の有機物が蓄積する可能性がある。貯水池内の立木や農耕地の表土等の処理はどのように考えているのか。	常時満水位以下の貯水池内に生育する立木は、基本的に伐採する計画である。また、貯水池内の大半は農地であるが、工事期間中にCSG材等のストックヤードとして利用するため、事前に表土を処理する計画である。これらの対応を行うことにより、貯水池内の有機物について、ある程度除去できると考えている。

### ②動物、生態系典型性(陸域)、生態系典型性(河川域)

No.	技術的助言	回答及び対応方針
1	魚類のモニタリング調査では、魚類相を対象とした定期的な調査の他、種に着目した調査を実施する必要がある。水産有用魚種であるアユ、サクラマス、イワナ等を対象に産卵場調査等も検討する必要がある。	調査の方法のほか、時期や頻度については、個別に相談させていただく。
2	動物調査や生態系典型性(陸域)調査は、より具体的な調査計画を検討した上で、担当委員へ個別に相談を行うこと。	今後、具体的な調査計画を検討した上で、調査を開始する前に担当委員へ個別に相談させていただく。

### ③景観、人と自然との触れ合いの活動の場

No.	技術的助言	回答及び対応方針
1	眺望景観の撮影を行う際には、一定の画角で撮影できるよう同規格のレンズを使用し、眺望景観の変化状況を適切に把握すること。	可能な限り同規格のレンズで撮影するよう心がける。
2	人と自然との触れ合いの活動の場の調査における写真撮影の目的を明確に記載すること。	指摘を踏まえ、修正する。

## 2. 植物移植計画(案)に係る技術的助言

### ①移植等の方法

No.	技術的助言	回答及び対応方針
1	採取した種子は、一定期間、冷蔵保存した後、適切な時期に播種を行うことも考えられる。	必要に応じて対応する。
2	森吉山ダム建設事業においても、重機を用いて植物の移植作業を行っていることから、その知見を参考にとよい。	情報収集のうえ、検討時の参考にする。

### ②移植先の選定

No.	技術的助言	回答及び対応方針
1	リスク分散の観点から、可能であれば、植物の移植は複数箇所へ行っていただきたい。	移植先の環境が限られているため、可能な範囲で対応する。

### ③湿地環境整備

No.	技術的助言	回答及び対応方針
1	移植地-4 に湿地環境を整備する際には、年間を通じてどの程度の流量が確保できるのか把握した上で、整備計画を検討する必要がある。場合によっては、百宅川からの揚水することも検討していただきたい。	指摘を踏まえて、今後、検討する。
2	湿地環境は、植物の生育条件の他、動物の生息条件も考慮して整備計画を検討する必要がある。今後、水質や流量等の物理環境調査を行った上で、整備計画を検討する必要がある。	指摘を踏まえて、今後、検討する。